

令和七年度 全日本中学生水の作文コンクール愛媛大会

知事賞

最優秀賞

中央審査

入選

「先人たちから学ぶ」

今治市立南中学校 三年

前田 佳汰 まえだ けいた

高原を自転車で走る。溪谷の水を横に見ながら。心地よさに足を止める。何とも言えない薄く青味があった緑色だ。橋の上からでも川底の石まできれいに見える。山々が蓄えて長い時をかけて浄化し、出た水だ。湧き水も辺りにある。冷たく澄み切った水だ。美しさに言葉も出ず、夢中でカメラのシャッターを切る。周りの空気まで澄んでいる。

愛媛県には沢山の水をたたえた川がある。水辺には様々な生き物や植物が生息している。コロナ禍以来、久万高原の美しい水にひかれて、何度も訪れている。高原の野菜、果物、米どれも格別な味だ。高原の気候ももちろん、豊かで美しい水があるからに違いない。小学生の頃、仰西渠という水路が江戸時代、久万高原で造られたと学んだ。溪谷の水に誘われるように、実際に見に行ってみた。

今も現役で活用されている仰西渠には、美しい水が勢いよく流れていた。爽やかな空気の中、思わず息を飲んだ。

江戸時代、深い谷にある久万川の水を水田に引けず、人々が困っていた。これを何とかしようと山之内彦左衛門が私財を投げうって造った用水路が仰西渠だ。それまで木をくり抜いた懸樋を使っていたが、壊れやすく、台風や大雨で流されてしまう。修理の費用や手間等でどれ程負担が大きかったことだろう。そこで硬い岩盤をくり抜き用水路にしたのだ。凄い発想だ。江戸時代だから全て手掘りだ。幅一・二m、深さ一・五m。長さは五十七mにも及ぶ。三年かけて造りあげたのだ。一体何人の人がこの作業に携わったのだろう。土の地面を掘るのさえた大変な重労働だ。ましてや硬い地盤だなんて……。彦左衛門は掘り進んだ分の岩の粉と貴重な米を引き換えに渡すことで作業を促した。ど

うしてもこの地域の田を水で潤したかったのだ。人々もその思いに応えたのだ。農業をしながら、岩盤を掘るのは並大抵のことではない。豊かな久万川の水が田に満たされたときの喜びは計り知れない。米作りには欠かせない貴重な水源だ。

目の前には、しぶきを上げて輝く水。今も仰西渠が豊かな水を運ぶ水路として活躍しているのを見ると、江戸時代の人がいかに先見の明をもっていたのか、地域の人たちが仰西渠をどれだけ大切に守ってきたのかがわかる。美しい水の裏には先人たちの努力がある。

私の住む今治市の玉川ダムにつながる蒼社川は「人取川」と恐れられており、江戸時代治水工事で川の流れを変えて洪水を防いでいる。ここにも昔から水の力を利用するための知恵がある。今も冬の間、川床の樹木や土砂を取り除く工事をしている。ここ数年は渇水と突然の豪雨の被害がすんでのところを防がれている。一昨年は春に雨がほとんど降らず、貯水率の数字を毎日のように気にしなくてはならなかった。庭木や野菜、果物もうまく育たなかった。ダムの水を維持するには上流の水が必要だ。豊かな水を育むには豊かな森林の力が不可欠となる。溪谷の美しい水も蒼社川の水も深い山々があつてこそ存在する。

この春休み、今治市で大規模な山火事が起こり、鎮火のために県内外から沢山の方々の力と水の力が必要となった。何とか協力したいと思うものの、個人の力だけでは難しい。改めて水の有り難さを感じた。雨に頼るだけではなく、日頃からの水の蓄えや水資源の使い方を自分たちのこととして見直さなければならぬ。被害にあった山が元通りになり、水を蓄えられるようになるまで、何十年もかかるはずだ。火事で失われた森林を取り戻すためにも豊かな水が鍵となる。水と森林はお互いが支え合い、私たちを共に生かしている。

豊かな水は昔の人たちから受け継いだ宝だ。先人たちの知恵と努力を見習い、豊かな水を守りたい。森林や水を守る活動に参加したい。何十年後であっても、愛媛に水が輝いているように。今、動き出そう。未来に繋ぐために。